

「ぬくもりを感じる場所」



保育教諭 高橋 早紀

まず、“ぬくもり”という言葉が平仮名表記であることが気になり、漢字と意味を調べてみる事になりました。漢字では“温もり”と書き、「人の温かさを感じる時」、「肌に触れる温かさを感じる時」という意味を持っていました。意味の説明の中で“温もり”と同じ字で“温かさ”という言葉が出てきたので調べてみると、「熱くも冷たくもなく肌が気持ちよく感じる温度」、「愛情・思いやりがある」、「穏やかである」、「経済状態が良い」と記してありました。娘の意見も参考にしてくて「ぬくもりを感じる場所ってどこ?」「どんな時にぬくもりを感じる?」と質問をしました。すると「太陽の陽が当たっているところ」「お風呂の中」「挨拶をした時」と返事がありました。“ぬくもり”の一言でも様々な意味がありました。居心地がよい状態が“ぬくもり”と言えるのではないかと私は思いました。

現在担当している0歳児クラスの子どもたちは、抱きしめることで涙が笑顔に変わったり、気がつけば膝に座っていたり手を握っていたりするので、肌に触れる温かさでぬくもりや心地良さを感じているのでしょう。幼いころは触れ合うことが大好きだった子どもたちも年齢が上がるにつれて肌に触れて温かさを感じる事に恥ずかしさや照れが出てきて拒む傾向があるように思います。肌ではなく言葉や行動で人の心のぬくもりを感じるようになった成長なのでしょうね。しかし、心身ともに成長しても子どもたちは肌で感じるぬくもりを求めている事は忘れてはならないと思います。

上記のことは私生活でも実感していて、肌を通してのスキンシップを好む1歳の娘に対し小2になった娘は手もつないでくれません。しかし、就寝時には体のどこかが私に触れています。肌のぬくもりを感じることで安心して眠り一日の疲れをとることができているのでしょう。そんな娘ですが私の職場復帰に伴い、留守番をするようになり、土曜日は一人で一日を過ごすこともあります。出勤前には帰宅時間を必ず伝え、昼食のお弁当に手紙とお菓子を添えるようにしています。見通しや特別感を持つことで、寂しさを感じさせないようにする私なりのアイデアです。先日、娘の引き出しをのぞいたら手紙がすべて袋に入れて取ってありました。それを見て、私の思いは伝わっていたのだと感じ、胸が熱くなりました。

そっと触れる、優しく抱きしめる、声掛け、仕草や表情、どんな些細なことでもぬくもりを感じる経験をすれば、きっと相手に対しても同じようなことができるようになると思います。ぬくもりを感じる場所が連鎖し広がっていくきっかけとなるよう、自分の生活を見つめ直そうと思いました。

(2020年2月)

